

# IR活動報告書

## 2025

九州産業大学

大学評価・IR室

2026年5月

## 目次

01   はじめに	P2
・ 報告書の目的	
・ IR の体制・業務・会議体	
02   九州産業大学における IR 活動について (2025 年度)	P4
03   学生調査の実施状況と主な結果	P5
・ 新入生アンケート	
・ 「成長の証」及び「文科省   全国学生調査」統合アンケート	
・ 卒業予定者アンケート (2025 年 1 月～3 月実施)	
04   その他の取組み	P7
・ 企業アンケート (概要) (2024 年度実施)	
・ 学習ポートフォリオ   CL ノートの効果検証	
・ 除籍・退学の要因分析 (概要)	
05   総括・今後の展望について	P9
06   付録 (参考)	P10
・ アンケート設問一覧	
・ 大学改革推進本部規程	

## 01 | はじめに

本報告書は、九州産業大学における IR（インスティテューショナル・リサーチ）活動の実施状況と、各種調査・分析の主な結果を年次で整理し、学内の意思決定および教育改善に資することを目的として作成する。

対象期間は原則として 2025 年度（2025 年 4 月～2026 年 3 月）とし、調査の実施時期・集計時点により一部の数値は基準日が異なる。

IR に関する情報（各種データの公表、報告書等）は、本学 IR ホームページに掲載している。

URL：<https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/efforts/ir/>

### 01.1 IR 推進体制

本学の IR 活動は、大学改革推進本部（以下「推進本部」）のもと、大学評価・IR 室および教育企画推進室が連携して推進している。推進本部は、教育データに基づく教育改革の PDCA サイクルを確立し、本学の教育改革を推進することを目的とする。

また、学部等における理解と協力を得ながら IR データを活用し、課題解決と教育改善につなげるため、各学部・学科・センター等から選出された「教育プログラムオフィサー」を配置している。

教育企画推進室は、教育改革に係る企画・制度設計等を担う立場から、IR 分析結果を踏まえた施策検討や学内調整に関与し、大学評価・IR 室と連携しながら、教育改善に向けた取組みの具体化を支援している。

- 推進本部：教育データに基づく教育改革の PDCA サイクル確立と教育改革の推進
- 大学評価・IR 室：データ収集・統合・分析、学内の意思決定支援、学内外への情報発信等
- 教育企画推進室：IR 分析結果を踏まえた教育改革施策の企画・検討および学内調整の支援
- 教育プログラムオフィサー：大学評価・IR 室と各学部等から選出されたオフィサーが意見交換を行い、IR データの活用と教育改善の検討を推進

### 01.2 大学評価・IR 室の主な業務

大学評価・IR 室は、大学評価（自己点検・評価、外部評価への対応等）と IR（教育・研究に関する情報の収集・分析と意思決定支援等）の両機能を担い、学内の質保証および教育改善の推進に資する業務を行っている。

#### 【大学評価】

- 全学的な自己点検・評価の実施体制の構築と推進
- 認証評価・テーマ別評価等の第三者評価を含む外部評価への対応
- 自己点検・評価結果の各部所等への還元と支援
- その他、大学評価や大学マネジメントに関する情報の収集

【IR】

- 大学の教育・研究に係る効率的かつ効果的な計画立案、戦略策定、評価及び意思決定の支援
- 大学における教育・研究に関する学内外の諸情報の収集、統合、分析
- ステークホルダーへの情報発信
- その他、教育・研究活動の活性化に関する事業の企画・推進

### 01.3 IRに関する会議体

意見交換の場として、教育プログラムオフィサー、推進本部副本部長（副学長）、大学評価・IR室が参加する「IR会議」を開催し、本学の現状把握と、IR活動・教育改善に関する議論を定期的実施する。

## 02 | 九州産業大学における IR 活動について（2025 年度）

本章では、2025 年度における本学の IR 活動について、年間の取組みを俯瞰できるような時系列で整理する。あわせて、IR 会議等の会議体における協議事項や、学生調査・各種分析、学内外への情報提供に関する主な動きを概観する。なお、学生調査の内容および分析の概要については、第 3 章以降で整理する。

### 2025 年

4 月	「新入生アンケート」実施
5 月	「ファクトブック」更新
6 月	第 1 回 IR 会議 ・ CL ノート（私の CampusLife ノート）の効果検証（概要共有） ・ 新入生・卒業予定者アンケートの結果について ・ 成長の証アンケートの見直しについて
11 月	「成長の証」及び「文部科学省   全国学生調査」統合アンケート実施
	除籍退学の要因分析について（報告）

### 2026 年

2 月	「卒業予定者アンケート」実施
	「企業アンケート」実施
	第 2 回 IR 会議 ・ 2025 年度「成長の証」及び「文科省   全国学生調査」統合アンケートの結果について

### 03 | 学生調査の実施状況と主な結果

本章では、各調査について「調査概要」→「主な結果」→「示唆」の順に、要点を整理する。

※本章に掲載する調査のうち、卒業予定者アンケートは卒業時期の都合上、前年度末(2025年1月～3月)に実施した結果を掲載する。

※本報告書では分析の概要と示唆を記載し、詳細な数値・図表等は割愛する。

なお、各調査の設問一覧は、末尾の第6章(付録)に参考資料として掲載している。

#### 03.1 新入生アンケート

調査概要	<ul style="list-style-type: none"><li>対象：2025年度4月入学者</li><li>実施期間：2025(令和7)年4月1日～4月8日</li><li>実施方法：Web</li><li>対象者数：2,664名/回答者数：2,657名(回答率：99.7%)</li></ul>
主な結果 (要点)	<ul style="list-style-type: none"><li>入学者が最も重視していたのは「学問分野・研究分野に興味があった」で、次いで「キャンパスの施設・設備が充実していた」。</li><li>相対的に重視されていない項目として、「留学・異文化交流プログラムが充実していた」等が挙げられる。</li><li>入試区分にもよるが、多くの項目で年内入試の方が平均値がやや高い傾向がみられる(要因の追加確認が必要)。</li></ul>
示唆	<ul style="list-style-type: none"><li>本調査は「本学に進学した入学者」の回答である点に留意しつつ、入学者が重視した要素(学問分野への興味、施設・設備等)を、広報・入試広報・初年次支援の改善検討の素材として整理できる。</li></ul>

集計結果：URL

[ [https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/efforts/ir/pdf/daigaku\\_questionnaire\\_2025.pdf](https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/efforts/ir/pdf/daigaku_questionnaire_2025.pdf) ]

#### 03.2 成長の証アンケート／(文部科学省)全国学生調査(統合アンケート)

調査概要	<ul style="list-style-type: none"><li>対象：全学部学生</li><li>実施期間：2025(令和7)年11月19日～12月9日</li><li>実施方法：Web</li><li>対象者数：10,277名/回答者数：5,437名(回答率：52.9%) / 有効回答数：5,039名(有効回答率：49.0%)</li><li>※回答時間2分未満は除外</li></ul>
主な結果 (要点)	<ul style="list-style-type: none"><li>学修成果・成長実感は総じて肯定的で、学生の8割以上が「大学の学びによる成長」を実感している。</li><li>「外国語」や「数理・データサイエンス」に関する能力の自己評価が相対的に低い。</li></ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学生の約 75%は授業外学習が週 5 時間以下と、学習時間が少ない傾向にある。</li> <li>• 大学サービスへの満足度は全体的に高い。一方、「希望どおりの就職」への期待は約 6 割に留まり、就職への関心の高さ（不安）も示唆される。</li> </ul>
示唆	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 全体傾向は把握できる一方、属性（学部・学年・性別等）により成長実感の理由や課題が異なる可能性がある。自由記述等の質的情報も含め、各部局の実情に即した論点整理（課題の具体化）に活用することが重要である。</li> </ul>

集計結果：URL

[[https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/efforts/ir/pdf/togo-questionnaire\\_2025.pdf](https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/efforts/ir/pdf/togo-questionnaire_2025.pdf)]

### 03.3 卒業予定者アンケート

調査概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 対象：2024 年度末（2025 年 3 月）卒業予定者（全学部）</li> <li>• 実施期間：2025（令和 7）年 1 月 21 日～3 月 17 日（年度報告書〈2025 年度〉には、前年度末に実施した学生調査として掲載）</li> <li>• 実施方法：Web</li> <li>• 対象者数：2,474 名／回答者数：1,465 名（回答率：59.2%）</li> </ul>
主な結果 （要点）	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 進路満足度・学業充実度・（学業以外の）学生生活充実度・魅力度（周りに勧めるか）など、各種満足度は 8 割以上が肯定的に回答。</li> <li>• 自由記述「本学の良い点」では、教員の親身さ・相談のしやすさ、施設の充実、就職サポート、様々な人との交流等に関する記述が多い。</li> <li>• 自由記述「改善すべき点」は回答自体が少なく、最多は「特になし」。一方で、ポータルサイト（K'sLife）の使い勝手や交通（JR の快速が停車しない）等に関する記述が相対的に多い。</li> </ul>
示唆	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 数値の高低の単純比較よりも、自由記述から学生目線の文脈（本学の強み・改善余地）を読み取り、教育・学生支援・広報等の論点整理に活用することが有効である。</li> </ul>

集計結果：URL [[https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/efforts/ir/pdf/daigaku\\_sotsu-questionnaire\\_2024.pdf](https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/efforts/ir/pdf/daigaku_sotsu-questionnaire_2024.pdf)]

## 04 | その他の取組み

本章では、学生調査に加えて、教育改善および学生支援の充実にに向けて実施した各種の分析・検証の取組みについて、概要を整理して記載する。

※本報告書では分析の概要と示唆を記載し、詳細な数値・図表等は割愛する。

### 04.1 企業アンケート（概要）（2024年度実施）

本学卒業生の社会的評価や印象等を把握し、今後の教育改善に反映することを目的として、企業アンケートを実施した。本報告書（2025年度）には、集計・分析の都合により、前年度（2024年度）に実施した調査を掲載する。2025（令和7）年2月開催の学内合同企業研究会に参加した企業を対象に、Microsoft Forms による Web アンケートを行った（実施時期：2025年2月13日～14日、2月17日～21日）。

#### 【主な結果】

- 採用に際して企業が重視する能力は、コミュニケーション力、対人関係力、チャレンジ力、主体的行動力等に回答が集中する傾向がみられた。
- 近年の本学卒業生に対する評価では、上記の能力に関して相対的に高い評価がみられる一方、ICTスキル、データ分析力等は相対的に低い傾向がみられた。

※本アンケートは、当該企業研究会に参加した企業からの回答に基づく結果であり、解釈にあたっては対象範囲に留意する。

### 04.2 学習ポートフォリオ | CL ノート（私の CampusLife ノート）の効果検証（概要）

本学が2023（令和5）年度後学期から運用している学習ポートフォリオ「CL ノート（私の CampusLife ノート）」は、学生が正課・正課外活動等の学びの内容や過程を記録・蓄積し、振り返ることを可能とする仕組みである。

今回、効果検証にあたっては、大学評価・IR室において、出席率、GPA、CL ノート入力内容等のデータを用いた分析を実施した。

#### 【主な結果】

- 検証内容：(1) 導入前後のゼミナール出席率の変化、(2) 教員コメントが学生に与える効果、(3) 記述内容と GPA の関係（支援の必要性把握の手がかり）
- 目標設定に対して教員コメントがある学生は、振り返りの記述がより長く、多様な語彙を用いる傾向が確認された（記述の深まり）。
- GPA の層により目標設定の語彙傾向が異なり、記述内容が学生支援の必要性を早期に把握する手がかりとなり得ることが示唆された。

上記の結果を踏まえ、CL ノートは学生の振り返りを促し、学修・学生支援の観点から重要な役割を果たし得る仕組みとして、継続的な活用と検証を進めている。

### 04.3 除籍・退学の要因分析（概要）

本学では除籍・退学率は減少傾向にあるものの、依然として重要な課題であることから、推進本部のもと大学評価・IR 室において、除籍・退学に至る要因を多角的に検証し、より効果的な予防策の検討に資することを目的として分析を実施した。

#### 【主な結果】

- 除籍退学は、2 年次・3 年次で生じる割合が相対的に高い傾向がみられた。
- 留年者のうち、過年度の傾向として 30%以上が除籍退学に至り、原級留置き制度の導入後の対象者では 60%以上が除籍退学に至る状況が確認された。
- 休学者のうち、過年度の傾向として 50%以上が除籍退学に至る状況が確認された。
- 退学理由は「就学意欲の低下」が最も多く、次いで「経済的困窮」「学力不足」が続いた。
- 2021 年度入学生の分析では、1 年次前学期 GPA と 4 年次累積 GPA に強い相関（相関係数 $\approx 0.84$ ）が認められ、1 年次前学期に GPA が低い学生の多くが除籍退学に至る傾向がみられた。
- 2024・2025 年度入学生の分析では、1 年次前学期 GPA に強く正の影響を与える要因は出席率であり、入学初期の出席状況の把握と支援の重要性が示された。

本分析の示唆を、ゼミナール活動や CL ノート等による日常的な学生把握・支援とあわせて、今後の学生支援施策の検討に活用する。

## 05 | 総括・今後の展望について

本章では、2025年度に実施したIR活動全体を振り返り、成果と課題を整理するとともに、今後のIR活動の方向性を示す。

### 05.1 本年度の成果

- 推進本部のもと、大学評価・IR室を中心とした推進体制およびIR会議等の会議体を通じ、教育データに基づく情報共有・意見交換の運用を継続した。
- 学生の学修経験や学生生活等の実態把握を目的に、学生調査を実施し、結果の要点を整理のうえ、学内での共有および学外公表（集計結果の公開）を行った。
- 学習ポートフォリオ（CLノート）について、大学評価・IR室が中心となり、出席状況・修学指標・入力内容等を用いた効果検証（分析）を実施し、学生の振り返り支援に関する知見を整理した。
- 除籍・退学に関する課題に対し、要因分析を実施し、学修継続に向けた早期把握・支援の観点から示唆を整理した。

### 05.2 本年度の課題

- 学内外で活用されることを前提に、調査・分析結果の「要点（メッセージ）」をより簡潔に整理し、関係部局が検討に使いやすい形で提示する工夫が必要である。
- 全学的な集計だけでは捉えにくい論点について、自由記述等の質的情報や、学部・学年等の属性別の見方も取り入れながら、現場感覚と接続した解釈・共有を進める必要がある。
- データの信頼性・比較可能性を高めるため、基準日・母数・除外基準等の注記を含む整理を継続しつつ、年次での比較が可能となるよう指標・設問の運用ルールを安定化させる必要がある。

### 05.3 今後の展望

- IR会議等を通じて、学内の関係部局との対話を継続し、教育改善の検討につながる論点（問い）を共有しながら分析テーマを設定する。
- 調査・分析結果は、要点を短くまとめた資料と詳細資料（公開ページ等）を役割分担させ、学内外の利用者が参照しやすい形で体系化・更新する。
- IRホームページを通じて、調査結果等の公表情報の更新・整理を継続し、学内外のステークホルダーが参照しやすい情報提供を行う。
- 今後も、推進本部のもと、大学評価・IR室を中心として、データの整備・可視化・分析・共有・公表のサイクルを継続し、教育の質保証と学修者本位の教育改善に資するIR活動を推進する。

## 06 | 付録（参考）

### 各種アンケート設問一覧

#### ①2025年度 新入生アンケート 設問一覧

##### 1. 学籍番号

学籍番号を半角英数（学部・学科イニシャルは大文字）で入力してください。（例：24AA111）

##### 2. 氏名

氏名を入力してください。

##### 3. 第一志望大学

受験時の第一志望大学はどこでしたか。その他を選択した方は「〇〇大学」と記入してください。

九州産業大学 福岡大学 福岡工業大学 久留米大学 西南学院大学 中村学園大学

熊本学園大学 北九州市立大学 佐賀大学 大分大学 長崎県立大学 山口大学

覚えていない その他

##### 4. 第一志望学部

第一志望学部はどこでしたか。

経済学部 商学部 地域共創学部 理工学部 生命科学部 建築都市工学部  
芸術学部

国際文化学部 人間科学部 造形短期大学部 覚えていない

##### 5. 他大学第一志望学部

問3で記入した大学の第一志望学部はどこでしたか。「〇〇学部」と記入してください。

##### 6. 第一志望学科

第一志望学科はどこでしたか。

経済学科 経営・流通学科 観光学科 地域づくり学科 情報科学科 機械工学科

電気工学科 生命科学科 建築学科 住居・インテリア学科 都市デザイン工学科

芸術表現学科 写真・映像メディア学科 ビジュアルデザイン学科 生活環境デザイン学科

ソーシャルデザイン学科 国際文化学科 日本文化学科 臨床心理学科 子ども教育学科

スポーツ健康科学科 造形芸術学科 覚えていない

##### 7. 大学選びで重視した点（リッカート）

志望大学を比較検討する際、次のようなことをどのくらい重視しましたか。

- ・学問分野・研究分野に興味があった
- ・教育内容（カリキュラム）が魅力的だった
- ・留学・異文化交流プログラムが充実していた
- ・教師・講師陣が充実していた
- ・サークル活動・部活動が充実していた
- ・キャンパスの施設・設備が充実していた
- ・キャンパスの立地・アクセスが良かった
- ・希望する資格が取得できそうだった
- ・就職実績が良かった
- ・奨学金制度が充実していた
- ・大学の知名度・イメージが良かった
- ・九産大の卒業生が活躍していた
- ・受験難易度がちょうど良かった

①特に確認しなかった ②一応確認した ③ある程度重視した ④特に重視した

## 8. 受験のきっかけ

本学を受験したきっかけは何でしたか。

- 高校の先生の助言    予備校・塾の先生の助言    親・家族の助言    先輩・友人の助言  
 自分で調べた

## 9. 参考にしたもの（リッカード）

本学進学に際し、以下の本学主催のイベントおよび媒体は参考にしましたか。

- ・オープンキャンパス（7月本学開催）
- ・キャンパスセミナー（9月本学開催）
- ・合格学部・学科の魅力体験会（2月本学開催）
- ・出張オープンキャンパス（4月地方開催）
- ・学外の入試説明会・進学相談会
- ・大学案内（冊子版）
- ・大学案内（電子版）
- ・ホームページ（大学全体）
- ・ホームページ（学部独自）
- ・進学情報誌
- ・進学情報Webサイト

参考になった    参考にならなかった    見て（来て）いない

## 10. 「建学の理想」「建学の理念」

本学の「建学の理想」（産学一如）と、「建学の理念」（市民的自覚と中道精神の振興、実践的な学風の確立）を知っていましたか。

両方とも知らなかった    「建学の理想」は知っていた

「建学の理念」は知っていた 両方とも知っていた

#### 11. アドミッション・ポリシー

所属学部・学科のアドミッション・ポリシー（入学者の受け入れ方針）を知っていますか。

アドミッション・ポリシーを知っている アドミッション・ポリシーを知らない

#### 12. 大学合格前の週あたりの学習時間

あなたは大学合格前に、学校の授業時間以外の勉強（授業の予習・復習、受験勉強、通塾、資格試験対策、教養のための読書時間など）を1週間当たりどれくらい行っていましたか。

ほぼ行っていない（30分未満） 30分以上1時間30分未満 1時間30分以上  
3時間未満

3時間以上5時間未満 5時間以上10時間未満 10時間以上15時間未満

15時間以上20時間未満 20時間以上25時間未満 25時間以上

#### 13. 入学満足度

本学に入学できたことについて、満足されていますか。

①とても不満 ②不満 ③やや不満 ④まあ満足 ⑤満足 ⑥とても満足

#### 14. 住居

現在の住居について教えてください。

実家（家族と同居） 一人暮らし（アパート等） 立花寮 合宿所（部活の寮）   
その他

#### 15. アルバイト従事

アルバイトについて教えてください。

していない する予定である 既に行っている

#### 16. 睡眠時間

あなたの直近1か月の夜の平均睡眠時間はどのくらいですか。

4時間未満 4時間以上5時間未満 5時間以上6時間未満 6時間以上7時間  
未満

7時間以上8時間未満 8時間以上9時間未満 9時間以上

#### 17. 学生生活（リッカート）

これからの大学生活で、次のような不安や心配はどの程度あてはまるとお考えですか。

- ・基礎学力が不足しており、大学の授業についていけない
- ・学習時間が不足しており、大学の授業についていけない
- ・パソコンを使いこなして学習を進めることができない
- ・様々なオンラインツールを駆使して学習を進めることができない
- ・課題や期限を自分で管理して準備・行動できない
- ・希望どおりの就職ができるか不安だ
- ・4年間で卒業できるか不安だ
- ・友人ができるか不安だ

・日常生活（睡眠や食事など）が乱れている

- ①当てはまらない ②どちらかという当てはまらない ③どちらかという当てはまる  
④当てはまる

#### 18. 取り組み（リッカート）

あなたは以下の事柄について、これからの大学生活の中でどの程度力を入れて取り組みたいと思っていますか。

- ・探求活動・プロジェクト活動（ゼミ・研究室を除く）
- ・教職課程・学芸員等の資格課程
- ・情報リテラシーに関するスキルの習得
- ・留学・異文化交流
- ・就職・インターンシップ
- ・社会活動（ボランティア・NPO 活動）
- ・サークル活動・部活動

- ①関心がない ②機会があれば取り組むかもしれない ③取り組みたい ④特に力を入れて取り組みたい

#### 19. 進路

卒業後の希望進路について、考えているものを次のうちから選んでください。

- 民間企業 公務員 教員 自営業（家業を継ぐ） 起業 その他の職業  
進学（大学院等） 未定

### ②2025 年度「成長の証」及び「文科省 | 全国学生調査」統合アンケート 設問一覧

問1 大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどのくらいありましたか。

4. 理解がしやすいように教え方が工夫されていた。
5. 予習・復習など授業時間外に行うべき学習が指示される。
6. 課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される。
7. グループワークやディスカッションの機会がある。
8. 質疑応答など、教員等との意見交換の機会がある。
9. ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導がある。

- ④よくあった、③ある程度あった、②あまりなかった、①なかった

問2 大学在学中に経験した以下の項目はどの程度有用だったと感じますか。経験していない場合は⑤を選択してください。

10. インターンシップ（5日間以上）
11. 海外留学・海外研修（短期も含む）
12. 主に英語で行われる授業の履修（語学科目を除く）

- ④有用だった、③ある程度有用だった、②あまり有用ではなかった、①有用ではなかった、  
⑤経験していない

問3 大学教育を通じて、次のような知識や能力などが身に付いたと思いますか。

- 13. 専門分野に関する知識・理解
- 14. 将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観
- 15. 文献・資料を収集・分析する力
- 16. 論理的に文章を書く力
- 17. 人に分かりやすく話す力
- 18. 外国語を使う力
- 19. 数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能
- 20. 問題を見つけて解決方法を考える力
- 21. 他者と協働する力
- 22. 幅広い知識、ものの見方
- 23. 異なる文化に関する知識・理解

④身に付いた、③ある程度身に付いた、②あまり身に付いていない、①身に付いていない

問4 これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか。

- 24. 卒業時まで身に付けるべき知識や能力を意識して学修している。
- 25. 授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている。
- 26. 教職員が熱心に教育に取り組んでいる。
- 27. 大学の学びによって成長を実感している。

④そう思う、③ある程度そう思う、②あまりそうは思わない、①そうは思わない

問5 成長実感の理由

28. どのような点で成長できている、または成長できていないとお感じですか。ご自由にご記入ください。

問6 今年度後期の授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間は、それぞれどのくらいですか。

- 29. 授業への出席（実験・実習、オンライン授業を含む）
- 30. 卒業論文・卒業研究・卒業制作（Q3で2年生を選択すると非表示）
- 31. 予習・復習・課題など授業に関する学習（卒業論文等は除く）
- 32. 授業と直接関係しない自主的な学習（学問に関する読書やディスカッション、実技の練習、資格試験の勉強等）
- 33. 部活動／サークル活動
- 34. アルバイト／定職
- 35. 通学時間（往復×週に大学に来る日数）

①0時間、②1-5時間、③6-10時間、④11-15時間、⑤16-20時間、⑥21-30時間、⑦31時間以上

問7 睡眠時間

36. 今学期のあなたの夜の平均睡眠時間はどれくらいでしたか。

- 4時間未満  4時間以上5時間未満  5時間以上6時間未満  6時間以上7時間未満  7時間以上8時間未満  8時間以上9時間未満  9時間以上

#### 問8 住居

37. 現在の住居について教えてください。

- 実家(家族と同居)  一人暮らし(アパート等)  立花寮  合宿所(部活の寮)  その他

#### 問9 経済状況

38. 現在の経済状況について教えてください。

- アルバイトをしないと学業継続が難しい  お小遣い稼ぎ程度にアルバイトを行っている  アルバイトを行う必要はない(社会経験のため行っているを含む)

#### 問10 学生生活

現在の大学生生活について、次のようなことはどの程度あてはまりますか。

39. 希望どおりの就職ができるかと思う

40. 4年間で卒業できると思う

41. 大学で多くの友人に出会えた

42. 日常生活(睡眠や食事など)に問題はない

43. (学業面以外の)学生生活が充実している

- ①そう思う、②ある程度そう思う、③あまりそうは思わない、④そうは思わない

#### 問11 進路

44. 卒業後の希望進路について、考えているものを次のうちから選んでください。

- 民間企業  公務員  教員  自営業(家業を継ぐ)  起業  その他の職業

進学(大学院等)  未定

#### 問12 大学の各種サービス

あなたは以下の大学の各種サービスについて満足していますか。

45. 教育に関する支援

46. 奨学金などの学費に関する支援

47. キャリア形成・就職活動に関する支援

48. 国際交流・留学に関する支援

49. 図書館(蔵書、施設、レファレンスサービス)

50. 自学自習できるスペース

51. 情報・通信サービス

52. 実習用の機器・設備

53. 福利厚生施設(食堂、購買等)

54. 課外活動施設

- 満足  やや満足  やや不満  不満  あまり利用していない

### 問13 各種サービスの評価の理由

55. 問12で評価された大学の各種サービスについて、大学側に伝えたいことがあれば教えてください。特になければ空欄で結構です。

#### ③2024年度卒業予定者アンケート 設問一覧

##### 1. カリキュラム・ポリシー

所属学部・学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）通りに成長できたと思いますか。

できた できていない カリキュラム・ポリシーを知らない

##### 2. ディプロマ・ポリシー

所属学部・学科のディプロマ・ポリシー（学位の授与方針）通りに成長できたと思いますか。

できた できていない ディプロマ・ポリシーを知らない

##### 3. 進路

進路について、現在の状況を教えてください。

民間企業 公務員 教員 自営業（家業を継ぐ） 起業 その他の職業

進学（大学院等） 未定

##### 4. 進路満足度

進路について、その結果（就職先等）に満足していますか。

①とても不満 ②不満 ③やや不満 ④やや満足 ⑤満足 ⑥とても満足

##### 5. 学業充実度

学生生活の学業面全体の充実度について、次の選択肢の中から最もあてはまるものを1つお選びください。

①全く充実していなかった ②充実していなかった ③どちらかといえば充実していなかった

④どちらかといえば充実していた ⑤充実していた ⑥とても充実していた

##### 6. 学生生活充実度

学業以外の学生生活全体の充実度について、次の選択肢の中から最もあてはまるものを1つお選びください。

①全く充実していなかった ②充実していなかった ③どちらかといえば充実していなかった

④どちらかといえば充実していた ⑤充実していた ⑥とても充実していた

##### 7. 魅力度

もし、身近に大学進学を考えている人がいたら本学への進学を勧めますか。

①全く勧めない ②勧めない ③どちらかという勧めない

④どちらかという勧める ⑤勧める ⑥強く勧める

##### 8. 本学の良い点

九州産業大学の良かった点について、ご記入ください。※特にない場合は空欄のままで構いません。

#### 9. 本学の改善すべき点

九州産業大学が今後より良くなるための改善点があれば、ご記入ください。※特にない場合は空欄のままで構いません。

#### 10. 後輩へのメッセージ

後輩へのメッセージがあれば、ご記入ください。※特にない場合は空欄のままで構いません。

### ④2024 年度企業アンケート 設問一覧

#### 問 1. 採用に関する重視項目

大学新卒者を採用するにあたり、以下の能力はどの程度重視しますか。あてはまるものを最大5つまでお選びください。

(回答選択肢：最大5つ選択)

問題発見力／チャレンジ力／情報収集力／論理的思考力／規範的判断力／主体的行動力／対人関係力／問題分析力／課題解決力／情報判断力／データ分析力／情報処理力／ICT スキル／意思伝達力／異文化理解力／コミュニケーション力

#### 問 2. その他採用に関する重視項目

上記以外で、大学新卒者を採用するにあたり、重視する能力がある場合はご入力ください。

(自由記述)

#### 問 3. 入社状況

近年(2020～2024年の間)に、貴社に入社した本学卒業生はいますか。

(回答選択肢) いる／いない／わからない

#### 問 4. 本学卒業生に対する評価

貴社に近年入社した本学卒業生について、以下の項目をどのように評価されますか。(貴社に近年入社した他大学の卒業生と比較して)

(回答選択肢：共通尺度) 1：身についていない／2：少し身についている／3：身についている／4：とても身についている

(評価項目) 問題発見力／チャレンジ力／情報収集力／論理的思考力／規範的判断力／主体的行動力／対人関係力／問題分析力／課題解決力／情報判断力／データ分析力／情報処理能力／ICT スキル／意思伝達力／異文化理解力／コミュニケーション力

#### 問 5. 本学卒業生のイメージ

貴社に勤務する本学卒業生に対して、どのような印象をお持ちですか。ご自由にご入力ください。(自由記述)

## 大学改革推進本部規程

### (趣旨)

第1条 この規程は、事務組織及び事務分掌に関する規程（以下「組織規程」という。）第2条に定める大学改革推進本部（以下「推進本部」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

### (目的)

第2条 推進本部は、高等教育を取り巻く変化及び社会情勢等を踏まえ、迅速かつ適切に対応するため、教育データに基づく教育改革のPDCAサイクルを確立させ、九州産業大学及び九州産業大学造形短期大学の教育改革を推進することを目的とする。

### (推進本部の組織)

第3条 推進本部の組織は、組織規程による。

### (業務)

第4条 推進本部は、組織規程第3条に基づき、次の業務を行う。

#### (1) 教育企画推進室

- ア 教育全般に係る企画・立案に関すること
- イ 学修成果の可視化の研究・開発に関すること
- ウ 教育に関する諸課題（教育の内部質保証、入学前教育、PBL、キャリア教育、社会人教育等）に係る調査・分析及び解決に関すること
- エ 教育及びその成果に関する調査・収集・分析したFD情報の効果的活用策の検討に関すること
- オ 教職員の能力開発のためのFD・SD研修プログラムの開発と実現に関すること
- カ 教育力向上プログラム・FD推進プログラム等に関する情報収集と教職員への提供に関すること
- キ アセスメントプランに関すること
- ク 教育に関する中期目標・計画及び年度計画の策定に関すること
- ケ リカレント・リスクリング教育の推進に関すること
- コ その他教育力向上に関すること

#### (2) 大学評価・IR室

##### ア 大学評価

- (ア) 全学的な自己点検・評価の実施体制の構築と推進に関すること
- (イ) 認証評価・テーマ別評価等の第三者評価を含む外部評価への対応に関すること
- (ウ) 自己点検・評価結果の各部所等への還元と支援に関すること
- (エ) その他大学評価や大学マネジメントに関する情報の収集に関すること

##### イ IR

- (ア) 大学の教育・研究に係る効率的かつ効果的な計画立案、戦略策定、評価及び意思決定の支援に関すること
- (イ) 大学における教育・研究に関する学内外の諸情報の収集、統合、分析に関すること
- (ウ) ステークホルダーへの情報発信に関すること
- (エ) その他教育・研究活動の活性化に関する事業の企画・推進に関すること

### (本部長及び副本部長の職務)

第5条 組織規程第6条第10項に定める本部長及び副本部長の職務は、次のとおりとする。

- (1) 本部長は、推進本部の業務を統括し、その管理運営にあたる。
- (2) 副本部長は、本部長を補佐する。

(専属教員等)

第6条 本部長は、必要に応じて推進本部に専属教員又は兼務教員として各学部等から選出された教育職員を置くことができる。

(意見聴取)

第7条 本部長は、第4条に掲げる業務を円滑に遂行するため、必要に応じて九州産業大学学部長会議、九州産業大学大学院研究科長会議又は九州産業大学造形短期大学部教授会において、意見を聴くことができる。

(産学共創・研究推進本部等との連携)

第8条 推進本部は、大学全体の教育・研究及び産学連携に関する諸活動を推進するため、産学共創・研究推進本部との連携を図るものとする。

2 前項に関わらず、大学全体の諸活動に関する連動性を確保するため、必要に応じて他部所との連携を図るものとする。

(その他)

第9条 この規程に定めるもののほか、推進本部の運営に関し必要な事項は、本部長が定める。

(事務)

第10条 推進本部に関する事務は、教育企画推進室及び大学評価・IR室が行う。

(改廃)

第11条 この規程の改廃は、理事小委員会の議決によるものとする。

附 則

この規程は、平成18年7月28日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。